



新たなステージに入った認知症治療と予防の最新情報

うらかみ かつや
浦上 克哉

鳥取大学医学部 認知症予防学講座

2023年6月14日、認知症予防の日に認知症基本法が成立し、共生と予防が車の両輪として施策が進められていきます。認知症は増加の一途をたどり、2025年には700万人を超えると推計されていました。しかし、昨年の厚生労働省の調査では、認知症は472万人と報告され、推計値より228万人少ない数字となりました。これは、認知症が予防できたことを意味しております。ただ、認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)は558万人と増加しており、これからはMCI対策が重要であることを示唆しています。また、抗アミロイドβ抗体薬が発売され、薬物治療も新たなステージに入りました。投与対象はアルツハイマー病の前段階であるMCIと軽度の認知症です。予防の観点からもMCIは可逆的な状態であり、MCIでの早期介入は正常への回復をもたらします。

MCI早期診断のためのスクリーニング法として嗅覚機能検査(ニンテスト:栄研化学)ともの忘れ相談プログラム(MSP:LIMNO)を推奨します。最も頻度の多いアルツハイマー型認知症では嗅覚機能は記憶機能の障害より前に出現します。未発症のアルツハイマー型認知症を発見することも今後重要になってくるので嗅覚機能検査は最善と考えます。そこで、認知症の嗅覚障害を短時間で負担なく検査でき、且つ精度の高い検査法を開発しました。方法は紙コップを使い、匂いを出すスプレーを用いて香りを2回プッシュして、被験者に嗅いで頂き、香りを当てて頂きます。10点満点で9～10点だと異常なし、5点～8点だと軽度低下、4点以下だと低下ありという評価になります。同時に認知機能評価も必要でありMSPを推奨します。MSPはタッチパネル式コンピュータを用いて、コンピュータによる音声と文字情報による質問を被験者が直接タッチして答えるものです。5分以内で終了し、感度と特異度も90%を超えております。従来のスクリーニングテストだと、検者による質問の仕方による差異や、被験者の検査への拒否があったりと課題が多くありました。MSPはそのような課題を解決できる機器と考えます。我々は厚生労働研究である認知症の早期発見・早期対応モデルの確立(J-DEPP)研究に参加し、一昨年鳥取県琴浦町と島根県隠岐の島町で、昨年は鳥取県北栄町で嗅覚機能と認知機能を調査した。認知機能低下のある方は筋肉量が低下しており、認知機能は低下していないが既に嗅覚機能異常を認める方が約6割あることを見出した。MCIからPreclinical ADを早期に見つけるために、嗅覚機能のスクリーニング検査の活用が切り札になる可能性がある。

認知症は治らない病気から、治る、予防できる病気になってきております。脳神経外科医も認知症の早期発見と予防にお力添えを頂きたいと希望します。

略歴

学歴と職歴

1988年 鳥取大学 医学部 大学院博士課程 修了
1989年 鳥取大学 医学部 脳神経内科 助手
1996年 鳥取大学 医学部 脳神経内科 講師
2001年 鳥取大学 医学部 生体制御学講座 教授
2016年 北翔大学 客員教授(併任)
2022年 鳥取大学 医学部 認知症予防学講座(寄附講座)教授

学会活動

2002年 日本老年精神医学会 前理事、評議員
2011年 日本認知症予防学会 前代表理事、理事
2011年 第1回日本認知症予防学会 大会長
2020年 第35回日本老年精神医学会 大会長

受賞歴

2023年 鳥取大学 学長表彰
2023年 日本臨床衛生検査技師会 有効賞・特別賞

著書

2023年 もしかして認知症?軽度認知障害ならまだ引き返せる。PHP